

青工高 PTAだより

第50号



青森県立青森工業高等学校

〒039-3507 青森県青森市馬屋尻清水流204番1

TEL:017-737-3600 FAX:017-737-3601 URL:<http://www.tosei-w.asn.ed.jp/~th/>

■平成26年12月18日発行

■青森県立青森工業高等学校PTA広報委員会
TEL:017-737-0330

■印刷所:長尾印刷(株)



わさおVS豚まん^{P2}

Miss青工グランプリ?

青工祭2014 P3

青工担ぎねぶた P4 大運動会〇ハン優勝 P5

全国大会報告・資格チャレンジ P6

青工祭アンケート調査 P7

PTA研修旅行 校内 校外PTA活動 P8~9

赤井教頭先生より 編集後記 P10



こ
男の娘



PTAパン工房 〜アビオ青森にて〜



PTA会長 森 直樹

今年の青工祭は秋晴れの好天の下、10/11(土)・12(日)の二日間に渡り行われました。

青工祭は世にいうところの「文化祭」であります。文化祭はその学校の文化を内外に示し、学校と個人のアイデンティティを世に問う機会でもあるのです。

青森工業のアイデンティティ。それを一言で云うならば「ものづくり」ではないでしょうか？

我が校輩出と言っても過言ではない立田龍宝、手塚茂樹の両ねぶた師による「二人展」は両氏の母校愛があつての実現となりました。両氏の作品の素晴らしさはもちろんでしたが、在校生の裏方で

のバックアップやクラス対抗ねぶた制作も花を添え大変豪華なものとなり、ものづくりと地域文化との関係を表現できました。

実習作品の展示発表は正にお家芸でもあり、「ものづくりの楽しさ」×「自由なアイデア」＝「創造」を感じさせてくれました。

中庭での模擬店の出店は大盛況で、吹奏楽演奏が更に盛り立ててくれました。中でもウルトラマンソングは保護者を学生にタイムスリップさせ気持ちさが若返りました。

OBの母校愛は幻そばの出汁となり今年も愛情たっぷりに振舞われました。

保護者による子供への愛情はいか焼きの焦げ具合と豚まんの温度に込められました。

フリーパフォーマンスでは個人とチームのアイデンティティが満載でした。

在校生の個性と、先生、保護者とOBの愛情が見事に融合され、青森工業の見事なアイデンティティが発信された素晴らしい文化祭でした。



わさおVS豚まん



焼いでる～？



めえど in 鯉ヶ沢

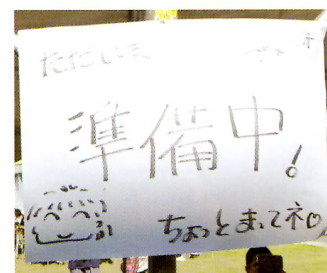


事務長!!まいどあり～



何しちゃ～？

旧校舎の味



あんつか待て!!



切っちゃ～



中庭きれいだっきゃ～



めえびよん

生徒から

生徒会長 花田悠河(M3)

残念ながら期間中サッカーの大会で参加できませんでしたが、天候にも恵まれ、大いに盛り上がったという話を聞き、良かったと思います。今年はブルーシートでつくる大壁画やクラスのぼりの製作など新企画も取り入れ、事前の準備も楽しく賑やかに行うことができました。来年以降も青工祭実行委員会を中心にさらに良い青工祭を盛り上げてほしいと思います。

青工祭
2014

青森県立青森工業高等学校

先生から

生徒指導部 工藤啓太

2日間で約1,600名の来場者を迎え、成功裏に終えることができました。たくさんの方々に青森工業高校を知ってもらい良い機会となりました。移転して初めて晴天に恵まれ、屋外の模擬店も非常に賑わい、活気にあふれていました。今後もPTAの皆様には、新メニューを加えながら文化祭の活性化に力添えいただきますようよろしくお願いいたします。



ねぶた師
二人展
立田龍宝先生

手塚茂樹先生

女装コンテスト
2014

3年バンド
「PLATINA」

運動部展示
県内でも珍しい
ヨット部と
山岳部

展示販売も
大盛況でした

味コン優勝は
都市環3年！
おめでとう♡

定時だよ〜ん



青工担ぎねぶた

天候に恵まれた8月2日～4日の3日間、青森ねぶた祭に恒例となった本校の担ぎねぶたが出陣しました。

初日は2年、2日目1年、最終日は3年生が運行しました。囃子方、担ぎ手は半纏、跳人はねぶたの衣装をお手伝いの保護者に着付けてもらい参加しました。

担ぎ手は、ねぶた2台を交替で担ぎ、囃子方は調子を合わせて、跳人はラッセラの掛け声に合わせて飛び跳ね、コースを一周しました。

左、25年度「津軽信政 荒川を鎮める」
右、26年度「海豚の諏訪参り」
ともにねぶた部制作



イケメン
いだ～？



ちがう
じゃよ

わのごど
？



わいや
もで～



汗も跳ねる！



母ちゃん今年もありがとう

うんどうかい

7月18日、安田の総合運動公園にて運動会開催。昨年とは違い快晴に恵まれ、無事全ての種目を行うことが出来ました。

結果は機械科3年の3連覇! 団結力と焼肉のチカラらしい。(佐々木先生ありがとう) 100m競争から始まり、ピーナッツバターの乗ったゴーヤやネギ、においと共に空に舞ったトマトジュース。素敵な(?) 筋肉を見せてくれた騎馬戦や綱引き。誰が考えたか、マルハンの行進などなどとても楽しく、笑わせてくれた運動会でした。見逃した方、来年は是非見に来て笑ってください。



い〜ち、
に〜

誰か早く〜

がんばれる?

目が〜ッ
目が〜!!

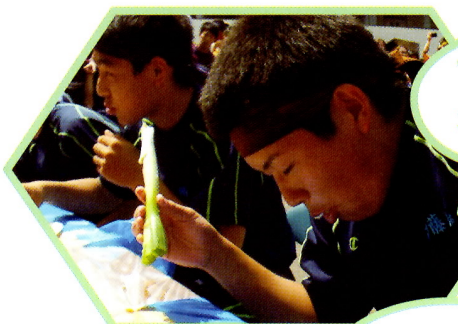
甘辛い
オッ!うえ〜

いや〜
無理!!!

見よ
この肉体美

どこかで
見たような...

超余裕〜



NHK高校放送コンテスト 96作品の頂点に!!



写真左から、
最上 響夏・木村 美紅・黒岩 萌 とともに情報技術科2年

コンテスト決勝が東京で7月に開かれ、本校放送部が8分間ドラマ「自分を信じる」をテーマに半年以上かけた作品が優勝しました。作品名は野内の駅をテーマにした「ホーム」、出逢いや別れのある駅をモチーフにアフレコにも初挑戦!!口の動きも意識して大変でしたが、来年にもつなげていきたいと意欲を見せていました。

Q 野内駅をモチーフにした訳を教えてください。

A 他校の作品では校内での撮影が多いので、校外にあるもので自分たちに身近なものとして出逢いや別れのある駅を選んだ。

Q 撮影日を教えてください。

A 休日を利用して9:00~15:00まで、4日間かけて撮影した。

Q 撮影中の心掛けたことは?

A 顔の表情で喜怒哀楽を表現できるよう、特に口の動きだけは意識していた。

Q 編集等で苦労した事は?

A 撮影した元の映像から音をすべて削り、別撮りした自然な音を重ねた。

工業クラブ 自動車部門 「本田宗一郎杯 Honda. エコマイレージチャレンジ 全国大会」出場!

9月28日(日)栃木県「ツインリンクもてぎスーパースピードウェイ」国際サーキットにてHONDAスーパーカブ50ccエンジンを使った独自の車体で「1リッターのガソリンでの走行距離を競うレース」に参加しました。

前日の練習走行では途中エンジンがかからずリタイア。翌日の決勝も6周目にエンジンが止まるもリタイア寸前に復活!制限時間内に既定の7周を数年ぶりにみごと完走しました。

「燃費よりも完走できた事に意義のある大会でした」・・・
(盛田先生談)



今後に生かす ボイラー技士免許1級県内高校生初合格



機械科3年 工藤 洸白

7月から学校の講習のほか自宅学習、講師の事務所を訪ねて、試験に挑んだそうです。

講師の先生にはとても感謝している、自分も頼られる人になりたい。みんなも1級目指して頑張って、挑戦することを諦めないでほしい!!と後輩にエールを送る言葉でした。おめでとうございます。

Q チャレンジの動機は?

A 2年生の時に2級を受験して合格したので、上へのチャンスを見失いたくなかった。

Q 1日の勉強時間は?

A 1~2時間。過去の問題を中心にした。

Q 気分転換の方法は?

A 好きな曲を聴いてリラックス!

Q 試験終了後の感想は?

A ギリギリセーフかなあ?これで落ちて挑戦したなあ〜って気持ち

Q 新聞掲載で感じた事は?

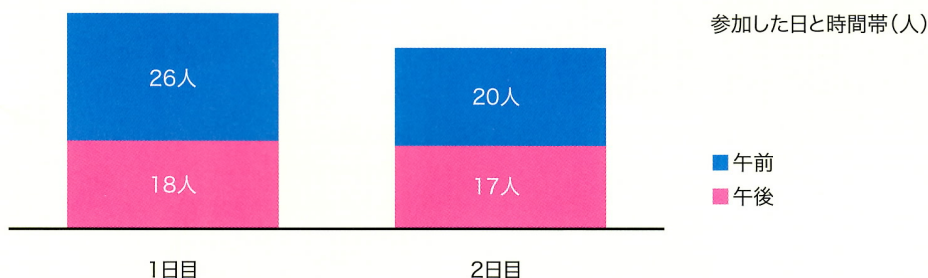
A 凄いことしちゃったなあ〜ってな感じ

青工祭アンケート結果報告 (回収率64.5%)

役員青工祭感想

- ★各会場にBGMがほしい。
- ★催し物情報が各会場に伝わらないので、音声での案内がほしい。
- ★科の展示やクラスの展示に案内役のガイドが欲しい。
- ★模擬店は活発でしたが、展示の各教室に活気がありませんでした。
- ★女装コンテストの入賞者は、校内を回ってお披露目して欲しい。
- ★吹奏楽とても良かったです。もっと人出の多い時間帯にやってみては！
- ★焼き芋は人気ですが、もっと多く焼いてほしい。すぐ売り切れてしまう
- ★ものの作りの高校イメージがあり、楽しく展示物を見ることが出来た。
- ★生徒、先生、保護者皆で文化祭を作り上げている感じがして楽しかった。
- ★地域の小さい子供たちが来ていて、とても楽しんでいました。
- ★いかを焼くスペースと、準備する枚数に課題が残りました。
- ★お手伝いの希望を2日間で申し込みましたが、余裕のある場合は1日で！
- ★模擬店2日連続だと、次の週からの仕事がきつかった。
- ★もう少し展示物を見る時間が欲しかった。

1 参加した日と時間帯は？



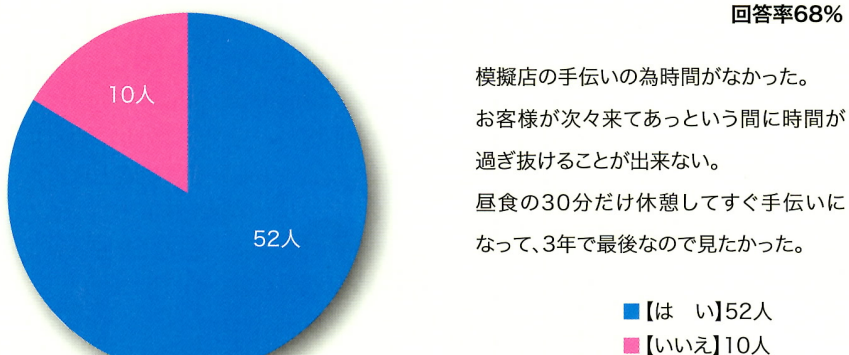
2 当日の人員配置についてどうでしたか？(ご意見ご感想を)

回答率40%



3 展示物や催し物を見ることができましたか？(ご意見ご感想を)

回答率68%



取材をしての感想

催し物について

今年初めて行われた女装コンテスト、男子と分かっても細くて可愛くて、すごく羨ましかった。味コンと共にこれからも続けて欲しい。

展示物について

ねぶた二人展が人気でした。運動部展示(山岳部、ヨット部、卓球部)他の部と違い、保護者が目にする機会もなく応援に行くこともできないので、どんな用具を使用して、どんなことをしているのか感じることができ、卓球部では軽く汗を流し気分転換ができた。

姉妹店誕生と当日まで

PTAでは昨年からいか焼きの模擬店を出して、盛り上げに一役買ってきました。今年は2店舗開催が学校から熱望され役員で検討した結果、小さい子供でも買える安価なもので「豚まん」なら・・・ということで、いか焼きの姉妹店は「豚まんムッシー」に決まりました。

保護者の皆様にお手伝いをお願いしたところ、2日間で延べ104名の希望があり、関心の高さを感じるとともに、保護者が参加できる行事として定着しつつあると感じました。

役割分担に工夫が必要

参加した皆様に模擬店についてアンケート調査をしたところ、6名の方々が2日間連続して、終日同じ役割での作業にあたっていただきました。グラフでは少数ですが、模擬店の役割分担や人員配置についての意見・感想を見る限り「工夫」が必要であり、具体的には担当する保護者の負担を考え、時間を細かく分けて、必要な人数を適材適所に振り分けるよう心がけたいと思います。活動全般に向けて、今回のアンケート結果を良きアドバイスと捉え、これからの保護者による行事活動に活かしていきたいと思っています。



研修委員会の 一年を振り返って

研修委員会委員長 牧野 優和

子どもたちが日々、どのような気持ちで何を考えながら、勉強に取り組んでいるのか・・・保護者の私たちも、同じ環境の中で、真剣な心構えで心ひとつに「学ぶ気持ちでやりましょう」をモットーに、研修内容を企画しました。

本校塗装実験室でのサンドブラストでは、生徒になった気分でガラス工芸体験をしました。アピオあおり調理実習室を会場に「パンリース作りと、ワンプレートランチ」では簡単料理を講師の先生に

教えていただき、料理を参加者全員で試食しました。最後は「ナチュラルカゴでプリザーブドフラワー」をPTAOBの安田先生の指導の下、バラや果実などのアレンジを楽しく学びました。

青工祭では、初めての方でもできるプリザーブドフラワーコーナーを設けて来客者に大変好評でした。

皆さんのおかげで、無事に1年を終えることが出来ました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。



PTA模擬店 新企画も大好評！

「いか焼き」の隣に、姉妹店「豚まん」がオープン！

今年のいかは、「わさお」で有名なあのお店から仕入れました。テント両端にはそれぞれのお店の看板を立てて、人目を引き付ける作戦です。いか焼きの方は、焼きが追いつかず10人以上の行列ができるほど好評となり2日間で340枚を、最終日昼過ぎに完売しました。お手伝いのいか焼きレディスはカットの手際も絶好調！お見事なチームワークでした。なお、今年から、本校機械科生徒お手製「いか焼きマシン1号」の加入によりおかげで一度にたくさんのいかを焼くことができ、とても重宝しました。生徒のみなさんありがとうございました。

今年デビューの豚まんですが、蒸し器を使ったことがないメンバーで保管庫の使い方もわからないままスタートとなりました。中身が冷たいものを販売して2度蒸ししちゃいました。初日は豚まんのほか3種類を販売し、2日目は豚まんだけの販売としました。合計186個の豚まんたちは昼前に完売しました。

今年の売上金は、いか焼き104,700円豚まん18,600円となりました。お手伝いの皆様大変ありがとうございました。



いか焼きマシン1号



出稼ぎに来たワン！



ラス1豚まんゲット

広報紙づくり研修会

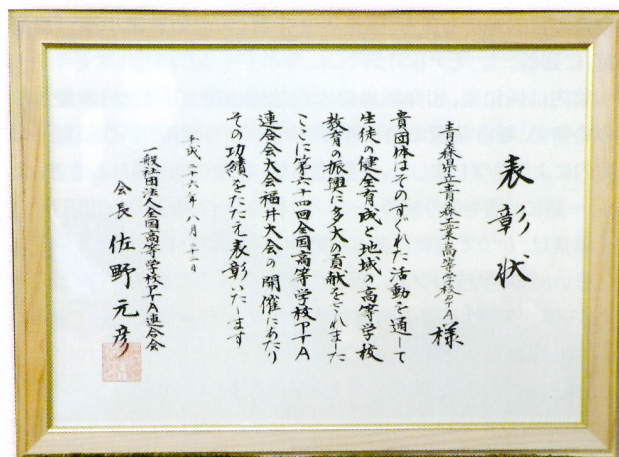
9月10日(水)青森県社会教育センターにて、県高P連主催の「広報紙づくり研修会」が開催され、ゲリラ豪雨の中県内各校より100名の広報関係者が集まりました。

昨年度、県高P連広報紙コンクール最優秀受賞校である本校を参加者(今渉外主任、中村広報委員長、西田、川村広報委員)

代表して、中村広報委員長が、委員会を立ち上げるまでの苦悩や、広報紙づくりの具体的な取り組みなどを発表したあと、東奥日報編集局整理部次長の石鉢康範氏による講演「魅力的な広報紙づくりのために」と題して、読み手の目を引き付ける見出しについて、グループごとに考えて発表する機会がありました。多種多様な意見が出され、それを基にプロの技を伝授していただきました。これからの広報紙づくりに活用していきたいです。 担当U1川村

第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会

8月22日、約1万人が福井県に集い全国大会が開催されました。「教育と考福」をメインテーマに、脳科学者の茂木健一郎氏による基調講演が行われました。



やったー！全国表彰受賞！！

大会では青森県高P連事務局校としての功績と広報紙コンクール最優秀賞受賞の実績等本校のPTA活動を讃えて、団体表彰となり森会長が代表して賞状を受け取りました。

参加者(今渉外主任、松井先生、森PTA会長、中村副会長、本間広報委員)



担当M3本間

県高P連進路シンポジウム

11月5日(水)アップルパレス青森にて「家庭におけるキャリア教育の推進」をテーマに、県内高校の教員や保護者160人が参加して行われました。最初に大学・企業・保護者の代表が意見を述べ、講師の講話に続きグループごとに、子どもの進路選択にあたって家庭でどのような支援ができるかなどを話し合いました。本校から大高健全育成委員がグループを代表して協議内容を発表しました。

参加者(今渉外主任、中村副会長、大高・赤屋敷健全育成委員、西田研修委員)



担当U3中村

県高P連東青地区協議会研修会

11月21日アップルパレス青森にて本校は主管となる研修会が開催されました。全体で79名のうち本校から30名の参加でした。

講師に矢部亨氏(NPO法人JETOみやぎ理事)をお迎えして～なぜ若者が本気で働かなければならないか～というテーマの下、本校委員が司会を務め、森会長の挨拶で開会となりました。

講演では、どんな環境に置かれても自分が良ければいいと言う傲慢な考えではなく、みんなの幸せを願える世界のリーダーであるべきと話され、震災から今も復旧・復興に頑張っている人がいることを改めて思いました。また大人や親が人の役に立つ生き方を、見せる必要があると締めくくりました。

講演後、本校委員より講師の先生に花束を贈呈して、閉会となりました。



担当S2西田

青工PTA研修旅行 秋田県小坂町の旅

11月8日(土)PTA研修旅行当日は、日頃皆様の行いが良く、朝から秋晴れとなりました。学校を出発して秋田県小坂町に到着、今回の目的地でもある、国重要文化財(明治の芝居小屋)「康楽館」に到着。

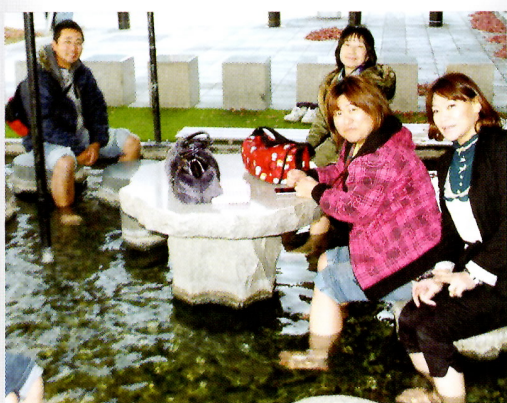
館内は純和風、和洋折衷の木造芝居小屋としては日本最古級の建物で、舞台装置の回り舞台や切穴(すっぽん)などを、黒子の案内により見学しました。芝居鑑賞後、感激のあまりひと泣きしたら、一緒にお腹も鳴り始め…バスは樹海ラインを通り十和田湖へ。

昼食は、かつて湖畔にあった廃校から木製の机や椅子を活用した思い出の「学校カフェ」、話し上手な店主の食育ガイドによるとヒメマス、ワカサギ等の料理はすべて地元食材を使用しているとのこと、家族旅行でまた訪れてみたいと思いましたが、年内の営業は明日で終了…来春のオープンが待ち遠しいです。

帰りのバスの中では、お腹も満たされ、口数も減り皆さん夢の中…最後に立ち寄った津軽伝承工芸館では、足湯を堪能し、学校に到着したのは午後4時過ぎでした。秋の風を感じながら、古き良き時代を懐古する旅となりました。

担当C1遠藤

康楽館前でパチリ！



足だけじゃ～
だめよ～ん、だめだめ！！



湖畔でご飯



愛情を持って向き合う

教頭 赤井 茂樹

光陰矢の如し。今年も残すところあと僅かとなりました。これまでの本校諸行事へのご協力、ご理解に感謝申し上げます。

この地域に移転し4年目の今、地域への本校理解と感謝から、ねぶた運行、小・中学校を対象としたものづくり教室、清掃ボランティア活動等多様な取組を展開しているところです。また、モダンな校舎と充実した施設・設備で、生徒諸子は、部活動・資格取得・ものづくり等、個々の目標をしっかりと持ち日々高校生活に全力で取り組

んでいます。その陰には、ご家族のサポートや愛情があり、子供たちも頑張っているのではないかと思います。

全国高校生川柳コンクール入選作品の「冷えてても 母の弁当 あったかい」という歌が紹介されていました。ともすれば多くの会話がないう思春期の難しい時期ではありますが、どのような形でも子供には愛情を持って接すれば、必ずや想いが伝わり分かりあえる時が来ると思います。一生懸命に働いている親の姿を見せたり、溢れんばかりの愛情を注ぎながら、親として自信を持って子どもにも接していただきたいと思います。私たち教員も一層資質を磨き、生徒のために力を結集し、愛情を持って支えていきたいと考えています。今後も保護者のご協力、ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

編集後記

運動会・ねぶた等、上半期取材で撮り貯めた写真は、青工祭において展示・配布をしました。アルバムにして10冊以上のお宝の中から、お目当ての一枚を探し出す編集作業に一苦労することに…(パソコンは最新式だけど)…

また、今号では担当ページを決めて各自またはチームで、原稿作成からレイアウトに至るまで初挑戦しました。原稿の校正作業では、それぞれが相手を思い遣りながら言葉を選ぶことと伝えるこ

との難しさを認識したことで、各自が次号に向けてパワーアップ出来たと思います。

生徒たちの素顔と保護者の笑顔、そして先生方の温かいまなざしが伝わってくるような広報誌づくりをこれからも目指していきたいと思っています。取材にご協力いただきました皆様、心からありがとうございました。※写真のコメント作業では、津軽弁コメントの嵐に…たんげ笑いました。

広報委員会 委員長 中村 伸吾

